

Freude

vol. 17. 28

2024. 5. 22. in.

5/29(水) 18:30 小田川
 総合会館 (由也先生)
 6/5(水) 18:30 東海田教会
 12(水) 18:30 小田川
 19(水) 18:30 東海田教会

■ 運営委員会報告 5/15 練習後開催

(栗野、川端、河野、杉田、山下、吉田いず)

1. 団員数 (5/15 現在)

	S	A	T	B	計	備考
継続	16	14	7	6	43	継続数変更。
入団&復帰	1		1	1	3	3名休団
合計	17	14	8	7	46	A15⇒14、T9⇒7

2. チラシ・チケットの件 ⇒ 現在印刷屋さんで絶賛印刷中！5月末印刷完了予定。

・スケジュール 6/5 チラシを練習会場に持っていきます。

みなさん、自身で使う分をたくさん持ち帰れるように、心づもりしておいてね。

・6/12 または 19 チケット説明会 宮下さんからチケットの申込方法など説明があります。

チケットの申込受付開始日、チケット渡し開始日、入金受付日も、説明会時に発表

・印刷部数 6000 枚しました。昨年と同数。

このうち、3000 枚を団員でガンガン使います！あとの 3000 枚は挟込みやお便りで。

(神戸フロイデ挟込 2000、オケ 400、OBOG お客 300、ソリスト関係 200～)

※団員のみなさんは、ご自身でのお知り合いへの宣伝の他、身近に図書館やお店等「置きチラシ」させてくれるところがあれば、置いてもらうようにしてください。どんどん活用してください。

3. 団員名鑑 (担当：河野ゆかりさん) 5/8 用紙配付。原稿締切 5/29 全員掲載がんばりましょ～！

4. その他 ⇒ 打上パーティ行います。

・演奏会終了後、いずみホール近くの、ツイン 21 の 1 階「プロント」にて。参加費用未定

・9 月あたりで、ステージ写真・打上パーティの申込受付開始します。詳細はその際、説明します。

※2020 年以降コロナ禍で、演奏会後の打上パーティを行っていませんでしたが、今回、行うことにしました。

i) 演奏会のあと、指揮者・ソリストの先生方から講評・感想をお話いただける上で打上パーティは貴重。

練習全出席表彰、チケット拡大上位者表彰など、演奏会後すぐの気持ちで行えるのもうれしい。

(コロナ禍での講評は、演奏会の約 2 週間後の、次のシーズン初回練習で亀井先生から伺っていた。)

ii) コロナ禍以降初めて行った懇親会 (3/20) も好評。26 名参加。練習会場以外での交流も大事。

iii) いずみホール近くで演奏会終了後に貸し切りしてもらえる場所が探せた。

以前行っていた「銀座ライオン」が閉店したため、場所があるか心配していたが、

ツイン 21 の 1 階の「プロント」で可能なことがわかりました。現在「仮予約」を入れています。

※行うからには、安全に楽しく、団員のみなさんが多数参加くださいますよう！いまから予定に入れておいてね！

もうすぐ演奏会チラシできます。チラシの裏面は団員募集掲載だ！

・2025年10月 住友生命いずみホール 曲目決まりました！（●^o^●）

ハイドン「ハイリッヒミサ」（1796年・74歳）

モーツァルト「パストラル・ミサ K140」（1773年・17歳）

（以下、ネット受け売りの曲目説明です〜！）

●ハイドン後期六大ミサとは（何回かニュース掲載してるけど、おさらい）

ハイドン（Franz Joseph Haydn, 1732. 3. 31-1809. 5. 31）は、生涯の殆どをオーストリア エステルハージ家に仕え、楽長、作曲家としてだけでなく楽団員のとりまとめ、新曲の演奏家出演交渉など侯爵家の音楽全てを仕切っていました。1790年、当主の交代のタイミングで一時期侯爵家を離れますが、1794年ニコラウス二世がエステルハージ家の当主となると、再びハイドンは呼び戻され、ニコラウス二世の命により、夫人のマリア・ヘルメネギルトの命名日の祝祭のために、毎年新しいミサ曲を作曲する事となりました。これが「後期六大ミサ」です。作曲年としては1796年「パウケン・ミサ」「ハイリッヒミサ」、1798年「ネルソン・ミサ」、1799年「テレジア・ミサ」、1801年「天地創造ミサ」、1802年「ハルモニミサ」。当時のヨーロッパはフランス革命→ナポレオン、という時代が揺れに揺れたとき。6曲それぞれにその時々状況が反映されています。

大阪フロイデはこれまで、ネルソン、テレジア、天地創造、パウケン・ミサを演奏。今回はシリーズ第5弾。

●「ハイリッヒミサ」とは

「ハイリッヒミサ」は「オッフイダの聖ベルナルドのミサ」の名称もあります。オッフイダのベルナルドは17世紀のカプチン・フランシスコ修道会の僧で、1795年5月19日に教皇ピウス6世によって列福。その聖名祝日である9月11日が、エステルハージ侯爵ニコラウス2世夫人マリア・ヘルメンギルデの聖名祝日である9月8日に近いため、両人を兼ねて賛美するためにアイゼンシュタットのベルク教会で1796年9月に初演されました。ちなみに、パウケン・ミサの初演は同じ年の12月ウィーン。ということは「ハイリッヒミサ」の方が先？6大ミサの1番目？

「ハイリッヒ」とは、本曲のサンクトゥスの中にオーストリアの古い教会音楽「Heilig, heilig, heilig, du bist allzeit heilig」が引用されていることによる（ハイリッヒはサンクトゥス（聖なる）に相当するドイツ語）。

ちなみに、パウケン・ミサ、ネルソン・ミサと「・」が入りますが、ハイリッヒミサ、は入りません。（入って記載されているものもありますが、入らないのが正しいような）「聖なるミサ」というひと続きの言葉だから、でしょうかね(^_-)-☆お祝いの気持ちがこもった、華やかで美しい音楽です。

●モーツァルト「パストラル・ミサ」

この曲は、最初、偽作とも言われたりして紆余曲折の扱いでしたが、今では、モーツァルト1773年ごろの作曲作品として「ホンモノ！」となりました。おそらく、1773年の聖誕祭のための作曲かと。1773年なら、モーツァルトは17歳かな。「パストラル」とは「キリスト生誕に関連する3拍子系の田園的な雰囲気」をこの曲が持っていることに由来することから名づけられたとか。（ももとの「パストラル」とは、キリストの聖誕のときの羊飼いにちなんで、クリスマスに演奏される8分の6拍子や8分の12拍子の子守歌風の曲だそう）

名前のとおり、この「パストラル・ミサ」には、優雅な三拍子が登場しますよ。みなさん、優雅に参りましょう^^;

■日程ですが、いずみホールが1年前予約確定となるため、今現在確定してはいません。

ホール提出中の希望候補日・10/16(木)本番&15 オケ合せ または・10/23(木)本番&22 オケ合せ

まずは今年10月、素敵な演奏を響かせて「あそこで一緒に歌いたい」と思ってもらおう！